



臨床研究部
からのお便り

今シーズンのインフルエンザ流行

第20回

今シーズンは、流行の開始が早いと言われていますが、国レベルでは、2019年第45週(11月4日～11月10日)に定点当たり報告数は1.03(患者報告数5,084)となり、流行開始の指標である1.00を上回ってインフルエンザの流行期に入ったとされました。2016/17シーズンは第47週が定点当たり報告数1.79でしたので、1～2週間早いという程度です。

インフルエンザウイルスには、A型とB型があり、またA型は、A/H1N1pdm09とA/H3N2の2種類に、B型はB/yamagata系統とB/Victoria系統に分かれますので、冬季に流行する可能性のあるウイルスは4種類あります。相手は大自然ですから、どれが流行するかは誰にもわかりませんので、インフルエンザワクチンには、この4種類がすべて入っています。

今シーズンの流行は、これまでのところ、A/H1N1pdm09(94%)、A/H3N2亜型(3%)、B型(3%)と報告されています。A/H1N1pdm09がもっとも多いですが、最近では途中から他の種類のウイルスもできて混合流行になることが多いので、まだまだわかりません。

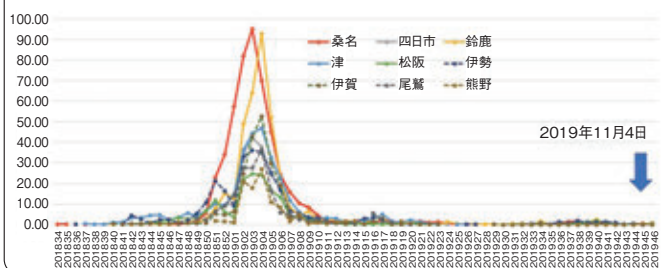
それでは現在三重県ではどうなっているのでしょうか。〈図1〉に2018/19シーズンと今シーズン2019年の11

月17日(2019年46週)までのデータを示してみました。これを見ると、昨シーズンは最初は津と伊勢で始まり、桑名と鈴鹿で急激に患者数が増加したものの、三重県中勢と南勢地区では流行は大きくなかったようです。

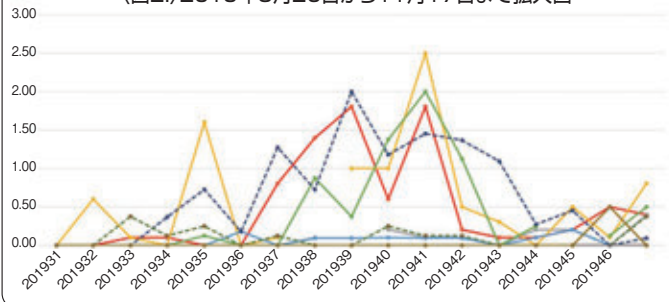
今シーズン(矢印)をみると、全国レベルでは、インフルエンザの流行期に入ったとされていますが、三重県ではまだ患者数は低い状態であることがわかります。定点当たり1.0を超えていないので、これを拡大してみますと〈図2〉、第35週(8月25日～9月1日)に鈴鹿で小さな流行があり、その後伊勢、桑名、松阪で患者数が増加、その後鈴鹿で再び患者数が増加していますが、第43週(10月21～27日)には一旦下がっています。これは、おそらく、外部からインフルエンザウイルスが持ち込まれて、小さな集団あるいは地域で感染が広がったものの、他の同期された小流行が無く、そこから地域全体への拡大にはつながらなかったものと思われます。現在はまだ患者数は多くありませんが、少しずつ増えてきつつあるところだろうと思われます。三重県感染症情報センターから毎週の地域別の情報が発出されていますので、こちらをご参照頂くと、流行状況が良くわかると思います。(臨床研究部長 谷口 清州)

(<http://www.kenkou.pref.mie.jp/default.htm>)

〈図1.〉三重県保健所管轄地域別インフルエンザ患者定点当たり報告数(2018年第35週から2019年第46週まで)



〈図2.〉2019年8月26日から11月17日まで拡大図



通所支援事業のひとコマ

以前お伝えしました、「絵本コンクール」の続編?!をお伝えしたいと思います。

通所支援事業のみんなで作成した「ゆび」「あし」の「ゆび」が岐阜女子大学の開催している「第10回手づくり絵本コンクール」において『岐阜女子大学賞』を受賞し、11月10日(日)に表彰式に行ってきました。当日は大賞・優秀賞・岐阜女子大賞・入賞・敢闘賞の表彰式で、8組の皆さんが集まっていました。審査員には、画家や絵本作家等の先生たちがおられ、表彰式当日はその方々による絵本の講評もありました。私たち「通所支援事業のなかまたち」の絵本「ゆび」についても、さまざまな視点からご意見・ご感想をいただき、次へのステップとなる講評をいただき、大変有意義な式典になりました。

今回作成した絵本「ゆび」は、障害があると“できない”ことに目が向けられる傾向にある世の中で、重症心身障害児(者)であっても、みんなと一緒に何でも変わりがない「大

な1人の人間」であることを改めて伝えたいとの思いから、通所支援事業のみんなと身体である一部「ゆび」をテーマに作品を作成しました。みんなの手の指を使い、年齢分の指スタンプをしました。後半4ページは、重症心身障害児(者)と一緒に過ごしている通所支援の職員の指スタンプです。利用者も職員も一緒になって作成しました。絵本を見てくださった方々にも、「障害があってもなくても、みんな大事な1人の人間なんだ」ということを知ってもらえる機会になればと思います。



津市絵本コンクールに出展した絵本「あし」は、通所支援事業出入りに、岐阜女子大学の図書館にて閲覧ができます。ぜひ一度ご覧いただければうれしく思います。

(主任児童指導員 丸澤 由美子)